

伊勢崎の小沼さん

サービス事業所設立、県産小麦で

農福連携 うどん生産

伊勢崎市の農業生産法人で代表を務める小沼大輔さん(45)が今春、同市市場町に就労継続支援B型障害福祉サービス事業所「あいうえお」を立ち上げた。農福連携で県産の小麦「さとのそら」を使った生うどんを生産し、農産物直売所などで販売している。福祉に関わることが夢だったという小沼さんは「多くの人にうどんを味わってほしい」と力を込める。

小沼さんは、元ヤマト運輸会長で障害者の自立支援に尽力した故小倉昌男さん

の著書「福祉を変える経営

障害者の月給1万円から

の脱出」を読んだことをき

つかけに、農福連携の事業所設立を志した。当初は野菜を加工する施設の運営を

考えたが、食材のロスが少

ないとされる製麺に目を付

け、うどんの生産を始めた。

同事業所では機械で製麺した1人前のうどんがベルトコンベヤーで流れ、利用者が就労訓練としてパック詰めや商品名「あいうえおうどん」と書かれた帯を付ける。1日約千パックの生産が可能で、小沼さんは「機械化されているため、働く

人に障害があつても高い生産性を保つことができる」と話す。

うどんは生地を低温で寝かせることにこだわり、小

麦の香りを楽しめる。「障

害のある子どもたちが自信

を持つことにつながれば」との思いから、帯には伊勢崎赤堀東小の特別支援学級の児童らが描いた絵を採用した。

県内8カ所の農産物直売所などで販売しており、小

沼さんは「『おいしい』という声や、リピーターになつたという報せが届いています」と手応えを感じている。販路を拡大しようとスーパーにも営業を展開しており、「飲食店の経営ができる」と次の大夢を語らませる。あいうえおうどんは1パック2食入りで248円。細麺と太麺の2種類がある。問い合わせは同事業所(☎0270・61・7534)へ。

(村上真代)

ゲレンデ スイセン

100

ノルンみなかみフラワー

ガーデン(みなかみ町寺間)で黄色や白色のスイセン

が、新緑の山並みに囲まれるように咲き誇っている。

約5分のスキーコースのゲレ



子どもにも分かりやすいようにと名付けた「あいうえおうどん」をPRする小沼さん